

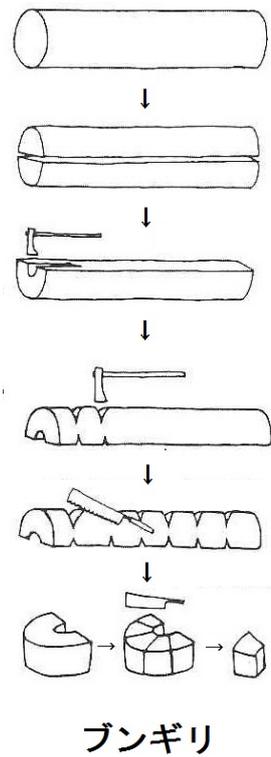
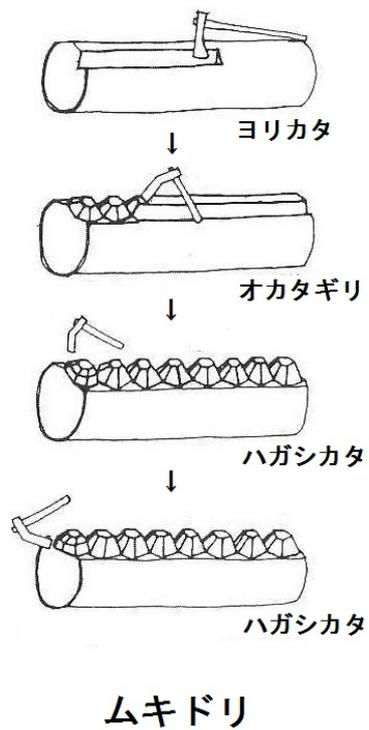
様式3 【物・文化財・風景など実体のあるもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 木地椀	(ふりがな) きじわん	
地域独特の呼び方			
タイトル	アラガタトリ		
伝承地域	南会津地方		
由来 (年代)	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>木地椀づくりの工程は大きく分けて、原木の伐採、アラガタトリ、カタブチ、ナカギリ、ロクロ挽きの順で行われる。</p> <p>これらの工程は木地師の手で一貫作業で行われていたが、ロクロ挽きが手引きから水車、電動に切り替わり分業化して町工場の作業となり、木地師の仕事はアラガタトリだけとなり消滅した。</p>		
内容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>木地椀づくりの工程は大きく分けて、原木の伐採、アラガタトリ、カタブチ、ナカギリ、ロクロ挽きの順で行われる。</p> <p>アラガタとは木地椀の原型で、その作り方としては「ムキドリ」と「ブンギリ」という方法があり、地域によって違いがあった。</p> <p>「ムキドリ」は、原木の伐採後表皮をはがし、マガリヨキという斧を用いて一列に連続して椀を伏せたように形づくり、一枚一枚はがしてカタをとる。一列を取り終わると、隣に同じように一列を形づくりカタを取る。</p> <p>「ブンギリ」は、原木を四尺ほどの長さに玉切りし、半分に割り芯をえぐり取る。半割りにした四尺ほどの長さの原木を、さらに四寸～四寸五分の長さにヒラヨキで切り込み、ノコギリで切り落とす。切り落として半ドーナツ状になった木片を椀の高さの寸法に合わせて割り鉋で割りカタを取る。</p> <p>「ムキドリ」で取ったアラガタは板目となり、「ブンギリ」で取ったアラガタは柾目となる。</p>		
大きさ・材質	(大きさ: 緑の文化財、巨木、建造物などスケールが情報として有用なもの。	(材質)	
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	出典『木地語り』	南会津町教育委員会	

キーワード



【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。